

# えんがわ

第56号

2011年11月発行

発行元  
衣笠病院グループ  
横須賀市小矢部  
2-23-1  
TEL046-852-1182

## 長崎は今日は雨だった

「冥土の土産に親子三代、女だけで私の生まれ故郷に行きたい」と何やら意味ありげに母が言い出し、この夏、母と娘と三人で長崎に行ってきた。昭和七年生まれの母は、あの原爆投下の数日後まで長崎で暮らしていました。

旅行初日、長崎は薄曇。観光している私たちは、長崎駅のバスターミナルとグラバー邸で雨宿りし傘は一度も使わず、「やっぱり、長崎は今日も雨だった♪」と呑気な事を言っていると、その日の長崎県は記録的な降雨量だったということを知りました。長崎は観光ガイド

にあるように、山や坂が沢山あり、歩く身には少々堪えるものでしたが、母はスタスタ・シヤカシヤカと歩き「私の足腰は長崎のこの稲佐山で鍛えられたからねえ」と余裕でした。万歩計は約一万歩で、フットマッサージ中、スタッフに「元気で若い足ですね」と言われご満悦の様子でした。この旅行で今更ながらに元気ではつらつとした母と同行し、母の子で良かったと思え、重ねて娘が今の私のように将来感じてくれたら幸せだなと思いました。〈追記〉その後、また旅行にと誘ったところ「疲れるから、もーよか！」と言われてしまいました。衣病訪問看護ステーション 看護師 土居智恵子

## えんがわ在宅モビリティの放射線量

放射線物質が飛散する方向は、地形、その日の気象状況によって違います。したがって、毎日報道される放射線量は一概に、原発事故の影響ということはいえませんが、

冷静に考えて頂きたいのは、原発事故前の自然放射線量は、ご存知でしょうか？そして、放射線を扱っている人々の上限の被曝線量がいくらかということをご存知でしょうか？まず、自然放射線ですが、地区によって違います。宇宙線、大地から、食物、空気中のラドンから年間二・四ミリシーベルト浴びています。そして、放射線を扱っている人は、年間五〇ミリ

シーベルトを超えないようになっています。

また、中国の広東省には、自然放射線が普通の地域より約三倍高い地域があります。その地域に住む人達と、普通の地域に住む人達の健康状態を比較するため、それぞれ約七万人の住民の健康調査が二十年以上にわたって続けられています。この調査によると、自然放射線の高い地域と普通の地域で、がんによる死亡率には差がないということですが。このことから、今騒がれている放射線量は、さほど心配は要らないようです。

衣笠病院 放射線技術科  
放射線技師 松村高宏

私の兄が住む旭川では十月初めに初雪が降ったそうです。秋っていつなんだろうと、今日の夕焼けを見ながら考えてしまいました。

